

# インカレ2000 in 愛知 プレビュー

2001/03/09-11 ,愛知県作手村で開催！

Text: 佐々木順・尾上秀雄



インカレもついに23回目を迎えた。参加者の減少や一般オリエンテリング界との乖離が取りざたされているが、競技面・イベント面において学生オリエンティアの最大のパフォーマンスが発揮される場であることは揺るぎない事実である。今回の舞台は、第9回大会以来となる愛知県。9日(金)に開会式を皮切りに、10日(土)に個人戦、11日(日)に団体戦の日程で行われる。特に団体戦は、参加者である学生の盛り上がり、主催者側のショーアップとも、日本における「魅せる」オリエンテリングの原点にもなっている。昨年の団体戦では男子は早稲田、女子は筑波がともに史上最大のタイム差で優勝したが、男子の東北・筑波・東京・京都、女子の東北・京都橘あたりを中心とする包囲網は、この2チームにどこまで迫ることができるのか。大会の行方を占いたい。

男子の優勝候補筆頭・紺野俊介(早稲田)

## 女子編

### 個人戦プレビュー

IC99以降の主なレースで、各選手のポイント(距離、登距離、コントロール数、所用時間から算出した数値にクラス補正を加えた)により順位を付けた(\*はシード選手)。

氏名	所属	ポイント
1 小林啓恵	* 東北4	176.3
2 塩田美佐	* 筑波4	172.8
3 上松佐知子*	筑波4	168.1
4 番場洋子	* 京都3	167.8
5 古澤裕子	* 広島2	159.3
6 横江君香	京橋4	152.2
7 森田有紀子*	静岡4	149.5
8 山田陽子	函情4	149.2
9 池田和香子	東北4	148.7
10 井上アヤ乃*	東北4	147.3

IC99チャンプの小林であるが、4月のワールドカップ選考会で堂々とトップ通過を果たし脚光を浴びたことは記憶に新しい。本戦は不本意だったが世界の強豪と

競った経験は大きな自信となっているはずだ。ICS00でも勝負強いところを見せてチャンプとなり、メンタル的にも強いところを見せている。

一方の塩田・東大会で学生のみならず日本のトップエリートを押さえいきなり優勝し度肝を抜いたが、それがまくれないことを東日本大会で再度優勝して示した。しかしICS00や関東本セレなどで取りこぼしレースもしており、ポイント平均では小林にトップを譲った形になっている。小林も東日本大会では規定時間オーバーのぼろぼろのレースをしているが、この2人に関してはいろいろな新しい挑戦をしている過程であると見たい。

あとは同じくIC99でもシードだった上松と番場が続く。上松は塩田のように飛び抜けた実績はないが安定した力を発揮しており、特にテクニカルなテレインのこなし方には定評がある。そしてインカレになると常に塩田より上位に入っているとい



東北女子のエース・小林啓恵

う事実も見逃せないポイントだ。番場は上記3人との比較ではポイント的にも下になるが、以前からチャンプになるなら3年の時と Saying it like this now

年は狙って来るだろう。特に12月にあった筑波・東京・京都の対抗戦で塩田、上松を粉砕し、自信を付けているだけに侮れない存在だ。よくインカレは(特に女子は)番狂わせがあると言われているが、今年のインカレに限って言えばこの4人の牙城は堅そうだ。

5位以下は一応順位が付いているが十数位までほとんど差がないと言える。逆にこのあたりの選手は成績のバラツキが大きいので、その時のでき次第で順位は大きく変動するものと思われる。

## 団体戦プレビュー

今年の優勝争いは東北と筑波の2強対決という様相が強い。筑波は昨年までの2連覇に2年生の時から関わっていた塩田と上松の2人が揃っていることは大きな強みだ。一方の東北は、小林を軸に今年こそ念願の優勝が狙える位置にいる。レベルの揃った同期の仲間達が1年の時から切磋琢磨しているのでチーム作りは万全のはず。筑波、東北のどちらにも均等にチャンスがある。3番手はレベルの揃った京都橘が一步リード。静岡、京都、京都女子もそれほど差はない。ここまでが入賞に最も近い6チームだ。IC98のように関西旋風が吹き荒れることもあり得る。

大学	一走	二走	三走
1 筑波	加藤	- 上松	- 塩田
2 東北	池田	- 井上	- 小林
3 京橘	上田	- 塩田	- 横江
4 静岡	田澤	- 重安	- 森田
5 京都	石川	- 番場	- 杉山
6 京女	古谷	- 澤田	- 谷
7 新潟	三浦	- 増山	- 土屋
8 千葉	蓬萊	- 藤田	- 佐藤
9 本女	岡田	- 赤松	- 長田
10 関情	横室	- 前田	- 山田

### <筑波>

超エース級の2枚看板、上松・塩田が軸。続く3人目候補はプレセレノ本セレ上位の加藤と二俣に絞られる。ショートでは二俣の方が上だったが、最終的には作手、東大をきっちり走った加藤を予想する。ただ多摩、千葉と本意なレースもあるので一抹の不安は隠せない。

東北大との一騎打ちは必至。走順が微妙 orienteering magazine 2001.04

な影響を与えるだろう。東北大が小林のアンカーが間違いのないところなので2走まで差を付けたいところだ。小林に対抗して塩田をアンカーに持って来たいところだが、その場合は上松が1走を苦手としている(IC98での失敗など)だけに加藤-上松-塩田になる。もし加藤が1走で出遅れてしまうとかなり苦しい戦いになるのは避けられない。

IC99で成功したように塩田を1走にする作戦も考えられる。この場合は塩田-加藤-上松だ。私が監督なら上松アンカーを推したい。

### <東北>

IC99、ICS2000のチャンプ小林が中核。残る4人の4年生の中から誰を選ぶかだが、千葉大会のWEで9位に入るなど上昇基調でシードにも選ばれた井上と、榛原大会で快走した池田を最終的に予想した。ICS00で入賞した下村を控えに回すという贅沢な布陣だ。

走順は、経験豊かな池田を1走にしてまず飛び出し、初代表メンバーの井上でつなぎ、エース小林をアンカーで勝負を掛けるだろう。2走終了時点で井上が僅差で筑波に食いついていけば勝機が生まれる。

### <京都橘>

外に見える実績では4人目が見当たらずこのメンバーで間違いのないだろう。シードこそ外したが東日本でE権を取る快走をしたエース格の横江が秋以降調子を上げているだけに楽しみだ。昨年も1走をしっかりとこなした上田、安定感の出た塩田らが持てる力をそのまま発揮すれば上位入賞が狙える位置にいる。

### <静岡>

エース格の森田が健在なので、田澤、重安、古橋ら同期の仲間のお膳立て次第では上位入賞が射程内だ。

重安がタイムの読めるレベルになって来たので、後はICSで2年続けて入賞を逃している森田の勝負強さだろう。作手や筑波の時のようなレースができれば嬉しい結果も。

### <京都>

エース番場の力は言うまでもないが、ここに来て豊富なトレーニング量に裏打ちされた石川が関西で上位に入るくらいま

で力をつけてきたことで、一気に上位が狙える位置に。石川を1走にして番場でトップ集団に躍り出て、最後に杉山で行ける所まで行く逃げ残り作戦が面白い。

### <京都女子>

昨年のインカレや作手で好成绩だった谷と、ショートで入賞した澤田らがさらに安定した成績を残すようになったので大いに希望が持てる。3人目は古谷と森のどちらになるか微妙だが、昨年失敗した古谷に名誉挽回のチャンスを与えると見た。

### <新潟>

IC99の時に2走で快走し3位を保った増山が、多摩のW21Aで2位に入ってE権を取るなど今年はエース格でチームを引っ張る。メンバーは経験豊かな4年生の土屋と陸上出身で伸び盛りの2年生の三浦を使いたい。走順は増山を真ん中に挟む形が最も結果が出そうだ。

### <千葉>

昨年までのエース安形が卒業してあまり目立たなかったが、集計してみるとしっかり選手が揃っていることが分かる。藤田が1月に入ってからの筑葉戦で久しぶりに元気なところを見せたことは好材料。安定したレース展開ができれば入賞ラインが見える位置までは行くだろう。

### <日本女子>

長田が筑波大会のW21Aで学生順位1位、各種対抗戦でも安定した成績を残して好調。矢口らの2年生組がもう一皮向けてくると楽しみなのだが、現状では4年岡田、赤松の経験を買った。

### <図書館情報>

山田、横室が最終学年となり今年が正念場。夏以降、エース山田が故障でやや心配されたが、ICS予選や関東本セレで元気な所を見せた。横室は今ひとつ伸び切れず、関東本セレの時のような良いレースが本番でできるかどうかカギ。3人目はICSのWTクラスで優勝した元気な2年生の前田穂だ。本番でのレースをうまくまとめられれば昨年に引き続いての入賞も不可能ではない。

### <その他>

慶應義塾はICS00シードの岡田とJWOC99の高橋を揃えているが、今年は

目立った実績が残せなかった。しかしもともと実力的には高いものを持っているだけに3人目の2年生葛西に掛かる期待は大きい。

東京女子は、2人の4年生、長野と田島に3年の山本だろう。今年大量に入った新人に夢を託す意味でも良いレースがした

## 男子編

### 個人戦プレビュー

例年、インカレでは「シード選手」という制度がある。これは男子90名、女子60名のインカレ選手権クラス参加選手の中から、入賞が確実視される選手に対してスタート順抽選その他で便宜をはかるといいう制度である。人数は年度によって変化するが今年も男子から10人が選定された。以下にリストを示す。

- 大嶋真謙（北海道3）
- 金澤拓哉（東北3）
- 猪飼雅（金沢4）
- 小泉成行（筑波3）
- 増田佑輔（筑波3）
- 紺野俊介（早稲田4）
- 安井真人（早稲田4）
- 加藤弘之（東京3）
- 蔵田真彦（東京工業2）
- 許田重治（京都3）

IC99のシード選手である猪飼・紺野・安井の3名はICSでも入賞を果たしており堂々のシード入り。特に紺野はショートとの2冠がかかり、その可能性も十分。ちなみにシード10人中、4年生は昨年もシードだった猪飼・紺野・安井のみである。

ICSで2位に入り、東日本のM21Aで優勝した加藤、ICSでノンシードながら5位入賞を果たし、東大・東日本のM21Aで上位に入っている小泉、そして多摩のM21Aで2位に入った許田までが入賞圏か。

これにユニバー代表の金澤、多摩のEクラスで17位と気をはいた大嶋、全日本のM20Eで優勝しICSでも6位入賞した蔵田、関東セレクションで紺野に続く2位に入った増田がどこまで絡めるか。

一方、ノーシードでは早稲田の西村が有力選手筆頭。昨年のインカレ個人戦9位、

いところだ。

相模女子は、3、4年生がいなくて2年生4人でチームを組む。JWOC2000の井手がいるが、誰がメンバーになるかはこれからの成長次第で最後までわからない。

金沢のメンバーは4年の下山と、最近よく大会に参加している上田と南だろう。下

関東インカレ5位などはシード選手に十分対抗しうる。

### 団体戦プレビュー

昨年は2走・3走で早稲田、東京、筑波のマッチレースが展開され、3走の紺野でちぎった早稲田が11年ぶりの優勝を遂げている。

今年は昨年以上に「早稲田 vs その他大勢」の図式が鮮明になると思われる。昨年早稲田に追いつがった両校のうち、筑波は2枚看板の卒業、東京は選手層の伸び悩みを抱える。同じく対抗勢力である京都・東北も含めて、今ひとつ早稲田の背中をつかみきれていない。

とは言え、入賞圏内という枠で考えれば、6個のイスを以上の5校で占める可能性は極めて高い。昨年は千葉が滑り込んだ入賞圏内最後の席の争い、今年はどうなるか。

<早稲田>

【予想】西村・安井・榎本・紺野

一時は部員減少に悩まされていた早大OCが完全復活、新たな黄金期を迎えた。ICSシード経験者4名という豪華な布陣から、他大学の戦略に全く惑わされない横綱相撲を取ることも不可能ではない。

メンバーは紺野と安井の2枚看板に加えて、残り2枠を西村、榎本(和)、大塚あたりで争っているが、実績の点で西村が一歩リードしている。

最強の下馬評を受けるチームの最大の敵はプレッシャーである。かつて、最終学年の鹿島田浩二に桜井・鈴木・山本という史上最強のメンバーで臨んだ東京は重圧をはねのけ逆転優勝を果たしたが(第15回)、その2年後に個人戦優勝・準優勝コンビ(入江崇・松澤俊行)を擁した東北は最後の詰めを誤って栄冠を逃がした(第17回)。後々彼らに並び称されるであろう両

山を2走に起用し昨年以上の成績を狙いたい。

中央はエース斎藤が卒業し今年はかなり厳しい。末吉と大出以外はあまり大会にも参加していないようだ。

エースを待ち受けるのは、どちらの結末か。  
<筑波>

【予想】増田・小泉・谷中・野口

筑波は篠原、高橋の2大巨頭が抜けてどうなるかと思われたが、後続が育って戦力が充実してきた。

メンバーは個人戦でシード選手になっている小泉、増田は確実。谷中は関東本セレクションで落選(のちに推薦)という不覚もあったが、大会実績の点から全く問題なし。残り1枠に関しては野口、佐々木が有力だが、どちらが入ってもおかしくない状況だ。安定なら野口、速さなら佐々木といったところか。

「飛び道具」が無いのが辛い、力を十分に発揮できれば早稲田を脅かす存在になるかもしれない。

<京都>

【予想】深川・許田・西尾・西村

昨年インカレ終了後の時点では早稲田の対抗1番手だったが、今季の4年生の成績が伸び悩み気味。

メンバーとして確実なのは許田・西尾という下級生で、残り2枠を、昨年のメンバーだった深川・西村と、大北を加えた4年生で争っている。このメンバーが切磋琢磨することにより全体のレベルの底上げがあれば、期待できる存在になるかも。

<東北>

【予想】真貝・金澤・禅洲・八巻

昨年は1走でまさかの優勝戦線離脱、ようやく4走で巻き返して滑り込み入賞という不本意な出来であった。今季もレース毎に上位陣が入れ替わり、他を寄せつけない速さと、深みにはまったときのロスタイムの落差が大きいことが特色である。

よって、メンバー選びも絶対的なエースである金澤を除いては大混戦状態。予想に上がったメンバー意外にも柏倉を始め、メ

ンパー争いに加わる可能性のある選手は多い。

<東京>

【予想】降旗 - 加藤 - 宇田川 - 針谷

加藤を除く昨年のメンバーが揃って抜け、戦力ダウンが否めない今年の東大。1年生を中心に若手の台頭が目立つ一方で、上級生の伸びが無いのが少々気掛かりだ。

メンバーは、加藤と降旗は確実に、残り2枠を針谷、宇田川、石原、鶴岡、後藤あたりで争っている。良く言えば競い合いの図であるが、悪く言えば決め手が無い状況ということになる。今年は入賞ラインで辛抱のレースを強いられそうだ。

<慶應義塾>

【予想】森下 - 高橋 - 前田 - 青木

上位5校に水を開けられた形で、ここからは入賞を狙うレベルの大学になる。その筆頭が慶應義塾。昨年は9位に沈んだが、その時のメンバーが3名残り、今年は更に上位へと進出したいところだ。

メンバーは、前田、高橋は確実に、残り2枠を青木、森下、大森で争っている。現段階では青木が一步リードといった感がある。入賞は十分に狙える位置にいるが、更に上位を目指すためには全体の底上げが必要。

<北海道>

【予想】武村 - 大嶋 - 長谷川 - 後藤

ここ3年、あと一步で入賞を逃している北大だが、今年はようやく選手層が厚くなり入賞を期待させる布陣となった。シード選手にも選ばれたエースの大嶋と後藤はメンバー入りが確実に、最近伸び盛りの長谷川も有力。残り1枠を武村、保坂、金築あたりで争っている。今年はメンバー争いが熾烈でかつ、大嶋が北大の頼れるエースに成長したので、入賞するための条件は十分。展開次第では更に上位も。

<新潟>

【予想】中野 - 今福 - 中島 - 本間

一昨年少入賞、昨年は中盤まで入賞圏内に踏みとどまっていたものの、最後に力尽きた。今年も選手層が厚くなっている一方で、安定感は相変わらず欠いている感がある。2年ぶりの入賞を目指すメンバーには中島・今福が有力、残り2枠を、本間、中野、大竹、佐瀬あたりで争っているが、現段階 orienteering magazine 2001.04

では本間が一步リードといったところか。

<東京工業>

【予想】川俣 - 蔵田 - 山根 - 倉澤

毎回入賞圏に顔を出しながらも、実際に入賞したのは第17回で早稲田との死闘の末に得た5位が最初で最後。6年ぶりの入賞に向けて松澤俊行(東北卒)をコーチに招聘して準備を進めてきた。

抜けたエース円井の穴は蔵田が埋めた。この夏 JWOC 遠征メンバーになり、2年生で唯一シード選手に選ばれている。問題はその他のメンバー。蔵田を含めて4人の個人エリートは史上最多であるが、全体に通過順位は下位で、他大学へのインパクトは小さいと言わざるを得ない。昨年走った川俣、山根、倉澤に他の他のメンバーがどこまで絡めるか。



たい。

中央も昨年からの大幅戦力ダウンは否めない。金子、霞、藤野は確実に、最後の席は三田が有力。金子、霞の両4年生は計算出来るが、来年以降は更に苦しそう。

静岡は ICS でAファイナリストの上條をはじめ、内藤、馬淵、長谷川あたりが有力。

(謝辞)

本特集を作成するにあたり、原田山人氏の Internet Orienteering News を参考にしました。この場を借りて御礼申し上げます。



昨年の優勝校・早稲田(左)と筑波。今年の栄冠はどこに？

<その他>

千葉は昨年のメンバーが総入れ替えになった。梅木は確実に、残りは芳賀、武田、大栗、小林、熊田あたりで争っている。今年は来年以降につながるレースを期待し